赤と黒の美

前田遺跡の出土品からは、縄文時代の工芸技術や美的センスの高さを窺(うかが)うことができます。特に漆塗りで仕上げられた木製の容器は、鉄を持たなかった縄文人たちが石の道具で木を切り倒し、加工し様々な工程を経て、作られた品々です。その技術は現代の漆器技術にも劣らない驚異のものとなっています。

〝縄文時代といえば土色〟のイメージを覆す、赤と黒に塗り分けた鮮やかな品々。これほど多くの漆製品を作るためには、大量の漆の採取から生成、塗りの技術など、これまでの縄文時代の漆器製作の高度な技術を示す資料と言えます。

縄文時代の川俣町

前田遺跡の発掘調査により、縄文時代の川俣町での生活や、当時の環境が徐々に明らかになってきています。今後も続く発掘調査の中で、私たちの祖先が川俣町でどのような暮らしをしていたか分かる日がもうすぐそこまで来ています。

前田遺跡から発掘された遺物と遺構を大公開！

縄文時代

晩期

(約 3200 年～約 2800 年前)

特徴的な遺構は、東西 50 m、南北 30 mの範囲に分布している柱穴群です。おおよそ 300 基ほど見つかっており、柱穴の中からは最大で直径 60 ㎝ほどの丸太材が残っているものも複数見つかっています。柱群は、建物跡や柱を建ててお祭りをする祭祀の場などが想定されます。その他に貯蔵したドングリがそのまま残っていた貯蔵穴や土器に入れて埋葬された幼児の頭骨も見つかっています。

後期

(約 4000 年～約 3800 年前)

特徴的な遺構は、住居の床に平らな石を敷いた敷石住居跡です。住居跡の平面形は柄鏡に似た形をしているものが見つかっています。この他にも現在調査中ですが、多くの土壙墓(どこうぼ)や土器棺墓が見つかっています。一部の墓坑からは人骨の一部などが見つかっています。

中期

(約 4300 年～約 4100 年前)

特徴的な遺構は、複式炉と呼ばれる大型の石組みを持つ住居跡があげられます。また、流路跡からは、大量の木製品に混じって、多くの漆器や籠・敷物などの編み組み製品が出土しています。その他にも埋没林やクルミやクリを中心とした種子類・獣骨・昆虫・キノコなど当時の環境や生活を知ることのできる多数の遺物が出土しました。

Column1 ーコラムー

縄文生活はじめました

前田遺跡で発掘作業をしている小野和徳さんと阿曽敏男さん。発掘作業を続けていくうちに前田遺跡に魅了され、編みかごを始めたというお2人にお話をお伺いしました。

Q 編み物をはじめたきっかけは？

阿 出土される遺物は部分的なものが多く全容が掴めません。そこで自分で実際に作ってみることによってその全容を確かめようと思いました。

小 現代のような道具のない時代に石を使って厚みや幅を均等にした精巧なかごを作っていた縄文人の真似をしてみたくて始めました。

Q 前田遺跡について伝えたいことはありますか？

阿・小 前田遺跡は全国的にも珍しい遺跡で、出土品はそのどれもが魅力的なものばかりです。川俣町に住む皆さんをはじめ、全国の皆さんに興味を持っていただき前田遺跡の魅力について知っていただければと思います。

カッターや専用の鎌を使いこなし数ミリ単位で厚さや幅をそろえます。

小野（おの）和徳（かずのり）さん　阿曽（あそ）敏男（としお）さん

製作中の編みかごと組む前の割った竹の様子。

Column2 ーコラムー

家の下は縄文時代

前田遺跡のある場所に住んでいた菅野ユリ子さんに前田遺跡発掘当時の心境をお聞きしました。

菅野 ユリ子 さん

数千年前の人々が生活していた歴史の跡が、こんなにも身近にあることに驚いています。前田遺跡が発掘されるまで、歴史などについては疎かったのですが、自分の住んでいた家の下に貴重な遺跡が眠っていたことを知ってからは、毎日のように発掘される遺物や遺構に興味津々です。

数千年前、縄文時代の人々が住んでいたとされる前田遺跡があるこの場所は、きっと生活していくのにとても良い環境だったんだと思うので、私も安心してこの場所で暮らしていきたいと思います。

町ホームページで前田遺跡に関する報告会・説明会の資料を公開中！

URL：https://www.town.kawamata.lg.jp/site/chosei-shisetsu/maedaiksekinituite.html

○現地説明会資料

日時：令和元年 11 月 3 日
9 時 50 分
～ 15 時 30 分
場所：前田遺跡

○前田遺跡発掘成果報告会資料

日時：令和 2 年 1 月 25 日
9 時 50 分
～ 15 時 30 分
場所：福島県文化センター

町ホームページ QR コード